

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300512		
法人名	有限会社 清福祉事業		
事業所名	(有)清福祉事業 グループハウスおよりの郷		
所在地	長崎県島原市秩父が浦町丁3543番地13		
自己評価作成日	令和 3年8月26日	評価結果市町村受理日	令和3年11月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年10月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のホームでは、理念にも書いてある通り「家庭」という言葉を大切に想い、利用者様がこれまでの生活で習慣になされていた事、考え、思いを大切に今までの生活に近づける様、居室の家具等に特に決まった規定はなく馴染み深いものを使用しています。また望みや、やりたいことなど尊重しお手伝いさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは日当たりの良い立地にあり、広々とした採光の良い住環境である。「のどか、のんびり、ゆったり」と理念を掲げ、家庭的な雰囲気作りを全職員で取り組んでいる。方言を混ぜた入居者と職員の会話がより円滑なコミュニケーションに繋がり、入居者との信頼関係を構築している。男性職員が多数在籍し、芝刈り、剪定などホームの整備にも入念に取り組んでいる。ホームには看護師も在籍し、入居者の身体状況に合わせたかかりつけ医への受診や相談など医療との連携のほか、訪問リハビリテーションを利用するなど生活の質(QOL)の向上を図っている。コロナ禍の中、家族との面会を制限しているが、入居者の日常生活の状況を丁寧に説明し家族の困り事にも真摯に相談に乗り助言を行うなど家族からの信頼も厚い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に本人の意向を尊重してケアを行っている。施設内(玄関、事務所、職員ロッカー)に掲示し、日々意識付けを行いながら利用者の方へ安心、満足して頂ける様取り組んでいる。	のどか『あなたに明るい挨拶と笑顔を提供します』のんびり『あなたの望む事、やりたい事をお手伝いします、私たちは確かな技術と知識であなたに満足と安心を提供し続けます』ゆったり『ここは家庭的で人情溢れる明るい家庭を目指します』の理念を掲げ、入居者個々の具体的な想いの実現に向けた支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和3年4月より自治会へ加入し市民清掃へ参加し地域住民の方と協力し交流の場を設けた。利用者の方についてはコロナウィルス感染症の感染防止の為、外出や外部との交流が困難であった。	自治会に加入し、回覧板等で地区の情報交換を行っている。定期的に地域の清掃活動に職員が参加し交流している。コロナ禍前はホームの行事に近在高校生や保育園児を招待して交流するほかボランティアも受け入れていた。系列のグループホームとの合同で芋掘り会を実施し地域住民も参加して交流も行われていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルス感染症の感染防止の為、面会の規制や外部の方との交流の場が減り実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催についてはコロナウィルス感染症の感染状況に応じて開催しており書面で説明のみの会が多かったが意見は有効に反映できるよう取り組みに繋げている。	現在コロナ禍により運営推進会議の開催は感染状況に応じて開催している。現在、各委員へ電話で意見を聞き取ることが主となっている。家族には会議内容の主な部分を抜粋し便りにて報告している。	委員より聞き取った意見は書面に残すと共にその意見に対応した取り組み状況を議事録等に記載し、各委員や家族等に周知することが望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通し情報の開示・意見の交換を行っている。	市福祉保健部保険健康課職員が運営推進会議の委員となり、ホームの実情を伝え情報交換を行っている。代表者が介護指導員としても活動し日頃から行政との交流ができています。地域包括支援センターからの空室状況の問合せに応じるなど連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、3か月に1回研修を行い、日々のケアの振り返りと実践に繋げている。当施設においては身体拘束は行われていない。	ホームで身体拘束は行っていない。関連する事業所の職員が集合し、内部研修やDVDを活用した研修を行っていたが、コロナ禍の為現在は資料回覧による研修に替えた。身体拘束廃止委員会開催時に身体拘束に関する勉強会を実施し、全職員へ身体拘束に関する弊害について周知を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を準備し、職員が知識、意識の共有が出来る様にしている。また定期的にカンファレンスを行い利用者一人一人のケアについて見直している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用者の方で利用されている方がいらっしゃるが全職員が制度を理解しているわけではない為、勉強の機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明等の説明を十分に行い、解約・改定の際も理解、納得されるよう十分説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウィルス感染症の感染防止の為、面会の規制中であるが特変時や受診の結果、必要物品については電話にて報告し状態の報告行っている。	これまで職員や管理者が家族がホームへ来訪した際に意見や意向を聞いていたが、コロナ禍による面会制限の為、電話で意向を確認している。面会時は玄関前の窓越しとしている。入居者の日常生活の状況を説明すると共に、家族の困り事にも相談に応じ適宜助言を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の希望や業務に関する要望は主任、管理者へ随時要望できる体制であり必要に応じてミーティングにて話し合い職場環境の改善に繋げている。	カンファレンスを毎月開催し、職員から出された意見等は2か月毎に開催する施設長会議で検討し回答している。入居者毎に下肢訓練、点字訓練等必要な支援内容について話合うほか、職員研修計画、行事計画等を話し合い、出された意見や提案を検討し運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員研修や勉強会を通し、意識付け・モチベーションの向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員研修や勉強会を通し、職員個人一人ずつの意識付けや思いを知るように働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島GH連絡協議会に参加しているがコロナウィルス感染症の感染防止の為、研修や他施設の方との交流が困難な状況である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入所が初めての方も多く、関わりを多く持つ事で本人が困っていること・不安な事など聞き出せる様コミュニケーションを図っている。また日中・夜勤帯の職員間の情報共有にて、本人様に安心出来るサービスに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス内容や理念を伝えると共に、希望等も聞き取りが出来、定期的に話を伺う様にし、サービスに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス内容や理念を伝えると共に、希望・思いの聞き取りがなされ、適切なサービスが受けられよう働きがなされている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもあげている、家庭的な雰囲気作りを心がけており、話しやすい環境作りを提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様を支える存在として関係機関と連携をとり、ご家族の心的負担の軽減を図ると共に、ご家族の協力も重視したケアを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が本人らしさを継続出来るよう、生活歴などを元に調度品の持ち込みなどの環境整備をはかり、ご家族様の協力を得ている。	ホームでは入居時に入居者本人及び家族から入居前の情報を得ている。また、前施設の情報を関係先より入手し把握している。入居後に聞き取った情報は毎月のカンファレンス及び個人記録に特記事項として残し共有している。必要に応じ介護計画に反映し馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中での入居者同士の関係はおおむね把握出来ている。現在はほとんどの方がリビングにて過ごされる事が多く、関わりもよく見られている。レク等の際は一緒に取り組める様促し、楽しみや関わりに繋げるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、ご家族様から相談して頂ける・相談しやすいような関係作りが心がけられている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活歴を基に普段の会話、入居者様同士の会話の中から、思いや希望を汲み取れるような意識付けをし、職員間で共有し、ケアの統一に繋げている。	入居時にこれまでの環境からの変化に順応できるよう居室への馴染みの物の持込みを支援している。職員や入居者同士の触れ合いの中で、その方の生活歴や趣味等に関する語りかけを行い意向の把握に努めている。職員は入居者が話しやすい雰囲気作りに心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係機関からの情報プラス、本人様、ご家族様からのお話を基に生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングの中で、本人様が『今』必要とされているケアが何であるかの検討・状態の把握の働きかけがなされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の意見を基に計画作成者、居室担当者が共同で評価と作成を行っている。ご家族様に対しても、それぞれの評価、説明、同意が行われている。	入居者毎の記録に介護計画の短期目標を記入し、時間軸で日々の入居者支援の内容や活動状況を記入している。計画作成責任者が入居者へのアセスメント、モニタリングを行い3か月毎に介護計画を見直している。必要に応じて専門職から意見を聞き、個人記録に残し介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一目で入居者様の1週間の生活の様子が分かり、記入しやすい・見やすい書式が使用されている。職員の情報の共有がなされており、居室担当者、計画作成者はその記録を基に評価・計画を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ職員間でケースカンファレンスを行い、ご家族・医療機関との連携を図りながら必要かつ柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に一度、職員間でケースカンファレンスを行い、ご家族・医療機関との連携を図りながら必要かつ柔軟な支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみのある医療機関での受診支援を基に本人様の『今』を支える為の検討・医療機関の選択がなされている。	入居前のかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。また、ホーム提携医への受診を入居者の状況に合わせて支援している。月に1度の定期受診は職員が同行し、状況変化等の報告を家族へ電話にて伝えている。急変時等の場合は協力医の往診もできるよう連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じてその都度話し合いをし、日々のケアに繋がる様、受診の際も細かな報告行い、状態の変化に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護・看護サマリーでの情報提供や面会時の医療機関関係者との対話による情報交換がなされており、時間が許す限りではあるが面会にも行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りについての指針」は定められており、入居者契約時にご家族様への説明はなされている。今年に入り1名の看取り介護行ったが状態に応じて主治医へ相談して適切な対応が出来ていた。	入居時に看取りの指針、同意書を用いて看取り期のホームの方針を家族へ説明している。看取りの時期になると提携医の判断の下、計画作成責任者が家族に伝え、看取り期の介護計画を作成し家族より同意を得ている。尚、延命処置を希望する場合は医療機関への転所となる。看取り期の職員の心理的負担軽減にはホーム看護師の指導、カンファレンス、急変時の連絡態勢の構築により対応できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に一度のケースカンファレンスにて入居者の状態を把握、周知し急変時の対応がスムーズに行えるよう話し合いが出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	コロナウィルス感染症の感染防止の為、消防署の職員の立ち合いで避難訓練実施出来ないが自主訓練を実施しおよりの郷Ⅱと連携し災害時の避難受け入れ訓練を実施した。	年2回、職員及び入居者が参加した避難訓練を実施し、その都度、課題や改善点を話合っている。島原市主催の合同防災訓練にも参加し、地域消防団との連携を図っている。関連施設であるグループホームからの入居者受入れを前提とした訓練にも取り組んでいる。本年11月には土石流を想定した自然災害に対応した訓練の実施を計画している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を通し入居者様と共同生活を送るものとして適切な対応を行っているが職員間でも気になる言葉かけの時は注意しあう等、心がけコミュニケーションが図れるよう対応している。	職員は入居者の話に耳を傾け、明るく優しい声かけに努め、入居者を尊重する支援に取り組んでいる。入居者への介護実践の場面ではプライバシーを尊重した声掛けが確認ができた。現在、接遇マナー研修はコロナ禍で実施が難しい状況であり、今後、研修計画に盛り込むなど実施できるよう期待する。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中は出来るだけリビングにて過ごして頂くよう促し他入居者や職員とかかわりを持つことで意向の確認、実現できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事、入浴、就寝時間などおおむねの時間は決まっているがその日の体調や状況に応じて対応出来ており入居者の意向を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	随時希望は受け付けており、美容院へも希望のある方は近所の美容院にお連れするなど対応出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナウィルス感染症の感染防止の為、外食支援は出来ていないが時期の旬のものなど、ホーム内で共に調理し食事出来ている。	調理を専門に行う職員が2名在籍し献立を立てている。入居者毎にミキサー食やキザミ食等も提供している。食器は陶器またはプラスチック仕様で、重さにも配慮し、自身で食事が摂れるよう見守りを中心した支援が行われている。饅頭づくり等やつを入居者と共に作る機会を設け食事が楽しみとなる工夫も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては一週間分の献立を調理担当者が考えており摂取量は一目で分かるように表へ記入し、管理されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは徹底しており、毎食後必要に応じてブラッシング介助し夕食後は義歯の預かり保管。週に一回洗浄実施している。また希望者は月に一回歯科往診にて口腔ケアなされている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方は排泄管理表を基にその人の排泄パターンに応じて極力トイレでの排泄が出来る様声掛け、誘導を行っている。	夜間帯も含め排泄チェック表に基づき定期的なトイレ誘導で排泄の自立に向けた支援に努めている。リハビリパンツから布パンツへの移行、自然排便を促す為の水分補給、運動を適宜行っている。リハビリパンツ、失禁パンツ、尿取りパッドの適正な使用量となっているか検討し家族の金銭的な負担軽減に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて下剤の服用支援しているが、極力、水分や食べ物、運動にて便秘解消に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1日通して行っている。非入浴日が続かない様、声掛けするなど行い、また体調不良などある場合は更衣だけ促している。チェックシート活用し、毎日の把握行えている。	入浴時は職員一人介助で1日4～5名、午前中に入浴支援している。入居者の好みの湯温調整も行っている。浴室は家庭的な趣の浴槽で、脱衣所との温度差調整は扇風機、ヒーターを活用している。皮膚疾患への対応としてマット交換、入浴順の変更等必要な感染対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に合わせて、日中臥床して頂くなど軽減に繋げている。季節に応じて空調管理行い、休みやすい環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日のセットは夜勤者2名、次の日のリーダー確認行っている。変更ある場合は送りで周知対応している。服薬時は声に出して日付・名前確認行い誤薬予防行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業が得意な方には、洗濯物たたみ等取り組み促し行って頂いている。パズルや指を動かす作業も取り組みにいれて、覚醒にも繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症の為に、買い物は代行して行っている。また家族様の面会にて気分転換に繋げている。自宅までの短時間の外出など、希望に合わせて対応している。	コロナ禍で外出支援は厳しい状況である。現在は家族との面会を玄関先で短時間行っている。病院受診後に花見で回り道をしたり、好天時はペランダ、駐車場などで日向ぼっこを行い可能な範囲で外気浴を実施するなど入居者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理されている方は少ないが、持っている事で安心される方もおられる為に、すべて預かることはしない。が紛失も考えられる為に、記載して持っている額の把握も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がえられる時は、職員が見守りながら行って頂いている。耳が聞こえにくい方の時は代わりに話すなど会話の円滑化を図っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節の花や、行事等で作成した壁画を飾ったりと季節を感じて頂ける演出を行っている。	共用空間には職員と入居者が一緒に作成した季節毎の作品や各種行事の写真を壁面に掲示している。感染症対策として座席の間隔、対面着席の廃止、空気清浄機の設置、天窓の開閉等を行い、安心して過ごせるよう取り組んでいる。トイレ、手摺、床などはモップや消毒液を使用して清掃を行っており清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを置いたり喜楽にくつろげる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力の下、ご本人様がよりご本人らしく暮らせる空間づくりに気を配っている。	居室には冷蔵庫、仏壇、ぬいぐるみ等入居者にとっての馴染みの物が持込まれている。各居室にはトイレ、洗面台を完備し、全室吐き出し窓で居室からベランダへ出る事ができ、緊急時対応も含め安心感が持てる。感染症対策として各ユニットに一室ずつ無菌室(特殊空気清浄機)を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の出来る能力に合わせて役割を持っておられるが、少しでも出来る可能性のあるときは、完璧でなくても取り組み促している。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に本人の意向を尊重してケアを行っている。施設内(玄関、事務所、職員ロッカー)に掲示し、日々意識付けを行いながら利用者の方へ安心、満足して頂ける様取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和3年4月より自治会へ加入し市民清掃へ参加し地域住民の方と協力し交流の場を設けた。利用者の方についてはコロナウィルス感染症の感染防止の為、外出や外部との交流が困難であった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウィルス感染症の感染防止の為、面会の規制や外部の方との交流の場が減り実践できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催についてはコロナウィルス感染症の感染状況に応じて開催しており書面で説明のみの会が多かったが意見は有効に反映できるよう取り組みに繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通し情報の開示・意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、3カ月に1回研修を行い、日々のケアの振り返りと実践に繋がっている。当施設においては身体拘束は行われていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を準備し、職員が知識、意識の共有が出来る様にしている。また定期的にカンファレンスを行い利用者一人一人のケアについて見直している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用者の方で利用されている方がいらっしゃるが全職員が制度を理解しているわけではない為、勉強の機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明等の説明を十分に行い、解約・改定の際も理解、納得されるよう十分説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウィルス感染症の感染防止の為、面会の規制中であるが特変時や受診の結果、必要物品については電話にて報告し状態の報告行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の希望や業務に関する要望は主任、管理者へ随時要望できる体制であり必要に応じてミーティングにて話し合い職場環境の改善に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員研修や勉強会を通し、意識付け・モチベーションの向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員研修や勉強会を通し、職員個人一人ずつの意識付けや思いを知るように働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島GH連絡協議会に参加しているがコロナウィルス感染症の感染防止の為、研修や他施設の方との交流が困難な状況である。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入所が初めての方も多く、関わりを多く持つ事で本人が困っていること・不安な事など聞き出せる様コミュニケーションを図っている。また日中・夜勤帯の職員間の情報共有にて、本人様に安心出来るサービスに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス内容や理念を伝えると共に、希望等も聞き取りが出来、定期的に話を伺う様にし、サービスに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス内容や理念を伝えると共に、希望・思いの聞き取りがなされ、適切なサービスが受けられよう働きがなされている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもあげている、家庭的な雰囲気作りを心がけており、話しやすい環境作りを提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様を支える存在として関係機関と連携をとり、ご家族の心的負担の軽減を図ると共に、ご家族の協力も重視したケアを心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が本人らしさを継続出来るよう、生活歴などを元に調度品の持ち込みなどの環境整備をはかり、ご家族様の協力を得ている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中での入居者同士の関係はおおむね把握出来ている。現在はほとんどの方がリビングにて過ごされる事が多く、関わりもよく見られている。レク等の際は一緒に取り組める様促し、楽しみや関わりに繋げるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、ご家族様から相談して頂ける・相談しやすいような関係作りが心がけられている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活歴を基に普段の会話、入居者様同士の会話の中から、思いや希望を汲み取れるような意識付けをし、職員間で共有し、ケアの統一に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関係機関からの情報プラス、本人様、ご家族様からのお話を基に生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のミーティングの中で、本人様が『今』必要とされているケアが何であるかの検討・状態の把握の働きかけがなされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、ご家族様の意見を基に計画作成者、居室担当者が共同で評価と作成行っている。ご家族様に対しても、それぞれの評価、説明、同意が行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一目で入居者様の1週間の生活の様子が分かり、記入しやすい・見やすい書式が使用されている。職員の情報の共有がなされており、居室担当者、計画作成者はその記録を基に評価・計画を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じ職員間でケースカンファレンスを行い、ご家族・医療機関との連携を図りながら必要かつ柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に一度、職員間でケースカンファレンスを行い、ご家族・医療機関との連携を図りながら必要かつ柔軟な支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみのある医療機関での受診支援を基に本人様の『今』を支える為の検討・医療機関の選択がなされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じてその都度話し合いをし、日々のケアに繋がる様、受診の際も細かな報告行い、状態の変化に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	介護・看護サマリーでの情報提供や面会時の医療機関関係者との対話による情報交換がなされており、時間が許す限りではあるが面会にも行けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りについての指針」は定められており、入居者契約時にご家族様への説明はなされている。今年に入り1名の看取り介護行ったが状態に応じて主治医へ相談して適切な対応が出来ていた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に一度のケースカンファレンスにて入居者の状態を把握、周知し急変時の対応がスムーズに行えるよう話し合いが出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	コロナウィルス感染症の感染防止の為、消防署の職員の立ち合いで避難訓練実施出来ないが自主訓練を実施しおよりの郷Ⅱと連携し災害時の避難受け入れ訓練を実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を通し入居者様と共同生活を送るものとして適切な対応を行っているが職員間でも気になる言葉かけの時は注意しあう等、心がけコミュニケーションが図れるよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日中は出来るだけリビングにて過ごして頂くよう促し他入居者や職員とかかわりを持つことで意向の確認、実現できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事、入浴、就寝時間などおおむねの時間は決まっているがその日の体調や状況に応じて対応出来ており入居者の意向を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	随時希望は受け付けており、美容院へも希望のある方は近所の美容院にお連れするなど対応出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナウィルス感染症の感染防止の為、外食支援は出来ていないが時期の旬のものなど、ホーム内で共に調理し食事出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては一週間分の献立を調理担当者が考えており摂取量は一目で分かるように表へ記入し、管理されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは徹底しており、毎食後必要に応じてブラッシング介助し夕食後は義歯の預かり保管。週に一回洗浄実施している。また希望者は月に一回歯科往診にて口腔ケアなされている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方は排泄管理表を基にその人の排泄パターンに応じて極力トイレでの排泄が出来る様声掛け、誘導行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて下剤の服用支援しているが、極力、水分や食べ物、運動にて便秘解消に繋げている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1日通して行っている。非入浴日が続かない様、声掛けするなど行い、また体調不良などある場合は更衣だけ促している。チェックシート活用し、毎日の把握行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に合わせて、日中臥床して頂くなど軽減に繋げている。季節に応じて空調管理行い、休みやすい環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日のセットは夜勤者2名、次の日のリーダー確認行っている。変更ある場合は送りで周知し対応している。服薬時は声に出して日付・名前確認行い誤薬予防行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業が得意な方には、洗濯物たたみ等取り組み促し行って頂いている。パズルや指を動かす作業も取り組みにいれて、覚醒にも繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症の為に、買い物は代行して行っている。また家族様の面会にて気分転換に繋げている。自宅までの短時間の外出など、希望に合わせて対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自身で管理されている方は少ないが、持っている事で安心される方もおられる為に、すべて預かることはしない。が紛失も考えられる為に、記載して持っている額の把握も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がえられる時は、職員が見守りながら行って頂いている。耳が聞こえにくい方の時は代わりに話すなど会話の円滑化を図っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その季節の花や、行事等で作成した壁画を飾ったりと季節を感じて頂ける演出を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファを置いたり喜楽にくつろげる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力の下、ご本人様がよりご本人らしく暮らせる空間づくりに気を配っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自の出来る能力に合わせて役割を持っておられるが、少しでも出来る可能性のあるときは、完璧でなくても取り組み促している。		